

胃がんの状況

わが国の胃がんによる死亡数の順位は、男性3位、女性5位となっており、胃がんは命にかかわることの多いがんに含まれます。

がん死亡数の順位(2024年)【全国】

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃

国立研究開発法人国立がん研究センター

「胃がん」「がん検診」などのがん情報についてもっと詳しく知りたい人は、国立がん研究センターのがん情報サービスをご覧ください。

国立がん研究センターがん情報サービス

ganjoho.jp



～個人情報の取扱い～

がん検診結果や精密検査の結果は、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づいて、市へ報告されます。

がん検診を受けた医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診と精密検査を受診した医療機関間で結果を共有することがあります。

受診者の氏名や住所は、がん検診のアンケートや精密検査の受診勧奨通知等に利用することがあります。

津市や三重県の健康推進を目的に、がん検診や精密検査の結果について統計的な処理を行い、公表することがありますが、その場合個人が特定されることはありません。

津市 健康づくり課 令和8年5月作成



津市がん検診の対象は、 自覚症状のない人です

胃がんは、ごく初期の段階では自覚症状がほとんどなく、また進行していても症状がない場合もあります。少しでも胃の痛み、不快感、食欲不振などの違和感があれば、医療機関を受診しましょう。



自覚症状がない場合は、定期的に検診を受けることで、がんを発見できる確率は高まります。



50歳以上の人は、2年に1度
胃内視鏡検査を受けましょう

胃がん検診 を受ける方、受けた方へ

早期発見・早期治療で命を守る



国は、受診を特に
推奨する者の年齢を
69歳以下としています

胃がん検診の有効性

津市が推奨する胃がん検診は、「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。デメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されています。

メリット	早期発見・早期治療	進行していない状態のがんを発見し、命を守ることができる
	安心を得る	検診で「異常なし」と判定された場合、安心できる
デメリット	偽陰性	がんが100%見つかるわけではない(精検不要とされたが、がんだった)
	偽陽性	結果的に不必要な治療や検査を招く可能性がある(要精検とされたが、がんではなかった)
	過剰診断	生命や予後に影響しない、微小で進行の遅いがんを見つけてしまう
検査に伴う偶発症		・胃内視鏡検査による出血や穿孔 ・胃部エックス線検査における誤嚥や腸閉塞、放射線被ばく等

精密検査は必ず受けましょう！

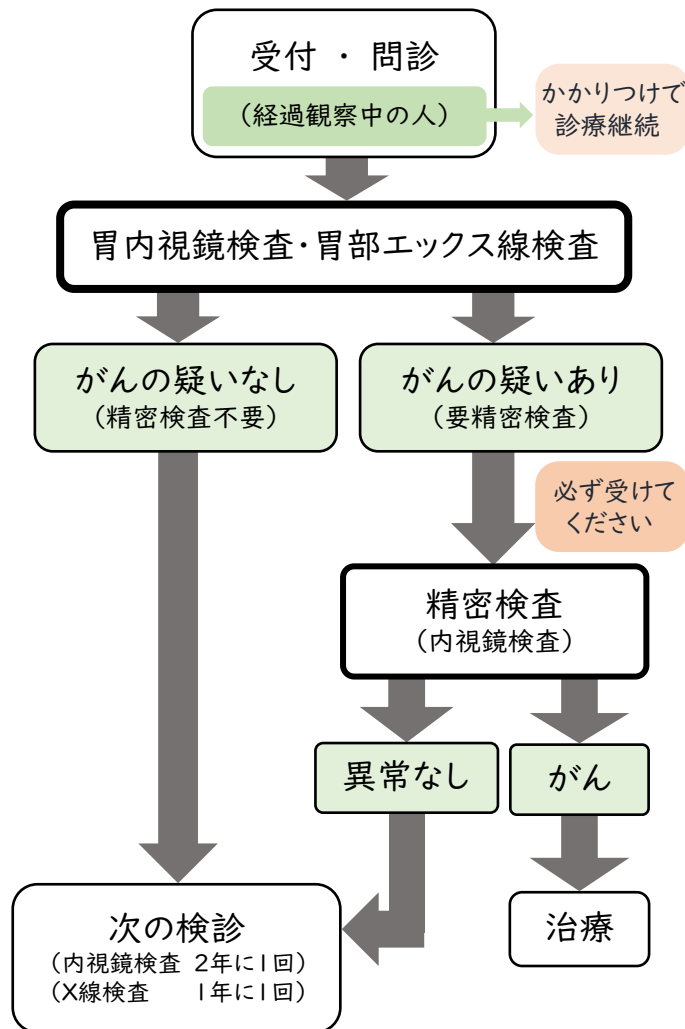
検査の結果、要精密検査となった場合には、必ず検診を受けた医療機関に相談してください。

精密検査は胃内視鏡検査

胃部エックス線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検査で疑わしい部位が見つければ、生検(組織を採取し、悪性かどうか調べる検査)を行うこともあります。

検診で胃内視鏡検査を受けた場合、精密検査は、検診時に同時に行う生検や、胃内視鏡検査の再検査となります。

胃がん検診の流れ



*胃内視鏡検査を受診した翌年は津市の胃がん検診の対象となりません。

*胃部エックス線検査においては、国の指針では、年1回受診しても差し支えないとされています。

津市では、国の指針に基づき、判定の精度を高めるため、2人の医師が判定を行う二重読影を行っています。そのため、検診結果の返却には1か月程度かかります。

胃内視鏡検査

口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入して、胃の内部を観察する検査です。



粘膜の変化も鮮明に見えることから、凹凸の少ない病変や出血なども確認することができます。

内視鏡を挿入する痛みを軽減するための麻酔薬や、胃の動きを抑える薬などを使用します。薬剤アレルギーや持病がある人はご相談ください。

胃部エックス線検査

発泡剤(胃を膨らませる薬)とバリウム(造影剤)を飲み、胃の中の粘膜を観察する検査です。



バリウムは時間と共に粘膜から剥がれ落ちてしまうため、撮影を行いながら身体回転(バリウムを付着させること)を繰り返します。

検査後バリウムで便秘になることや腸内で詰まって腸閉塞を起こすことがありますので、下剤の服用をご検討ください。

検査前48時間以上排便のない人は検診を受けられない場合があります。また、過去にこの検査で問題があった人や、水分制限を受けている人は、検査を受ける前にご相談ください。

検査当日は、食事や飲料の摂取制限があります。受診する医療機関の指示に従ってください。

